

令和2年度

「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会

Fukushima Federation of consumers' organizations

(令和3年2月作成)

令和2年度「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会

平成23年3月11日の東日本大震災からもうすぐ10年を迎えます。福島県は原発事故により県内外へ避難された方も多くおりましたが、除染等により帰還困難区域を除き、避難指示解除準備区域及び居住制限区域が解除され、次第に故郷に戻ってきています。また、風評による農林水産物の売上げは震災前の状況には至っていませんが、少しずつ回復しています。

当団体では、平成23年に体験記録集を作成し、平成24年から「食や放射能、風評に関する意識調査」を9年間実施しまとめてきました。

【調査 対象】福島県民および福島県消費者団体連絡協議会の会員

【調査 方法】会員を通して配布・回収及び生活展等会場での記入

【調査 期間】主に令和2年7月から8月及び生活展等

【調査 項目】質問9項目

【有効回答数】1,229人（配布数1,300枚、有効回答率94.5%）

	頁
年代別・男女別人数	1
質問 1 食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？	2
質問 2 福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています、ほとんど検出されていませんが、知っていますか？	3
質問 3 あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか？	4
参考【消費者庁】あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか？	5
質問 4 ①福島県産米はこれまで全量全袋検査をしていました。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表し、令和元年産米で基準値超過がないことから、令和2年産米より、避難指示等のあった12市町村を除き、旧市町村ごとの抽出検査（モニタリング）に移行する予定です。今後の検査について伺います。	6
②福島県産米の全量全袋検査をこれまでどおり、すべて検査した方がよい、と答えた方に伺います。全量全袋検査はあと何年必要ですか？	7
質問 5 現在福島県内にはモニタリングポスト（リアルタイム線量測定システム）が設置されていますが、知っていますか？	8
質問 6 現在設置されているモニタリングポストの配置見直しが一時延期になり、当面は継続になりました。今後について伺います。	9
質問 7 福島県消費者団体連絡協議会では『エシカル消費で社会を変えよう！』をテーマに活動しています。「エシカル消費」について伺います。	10
質問 8 「エシカル消費」に関する消費行動として次のようなことがあります、あなたにできることはありますか？	11
質問 9 地球温暖化、プラスチックごみ汚染の問題が緊急の課題になっています。私たちの環境を守るため、日常生活で大切なことは何ですか？	12
まとめ アンケート調査を実施して	13
質問ごとの年代別集計表	14
調査用アンケート用紙	17
令和2年度 福島県消費者団体連絡協議会の主な活動	

回答者の年代別・男女別人数

配布数 1,300 枚

回収数 1,236枚

有効回答数 1,229 枚

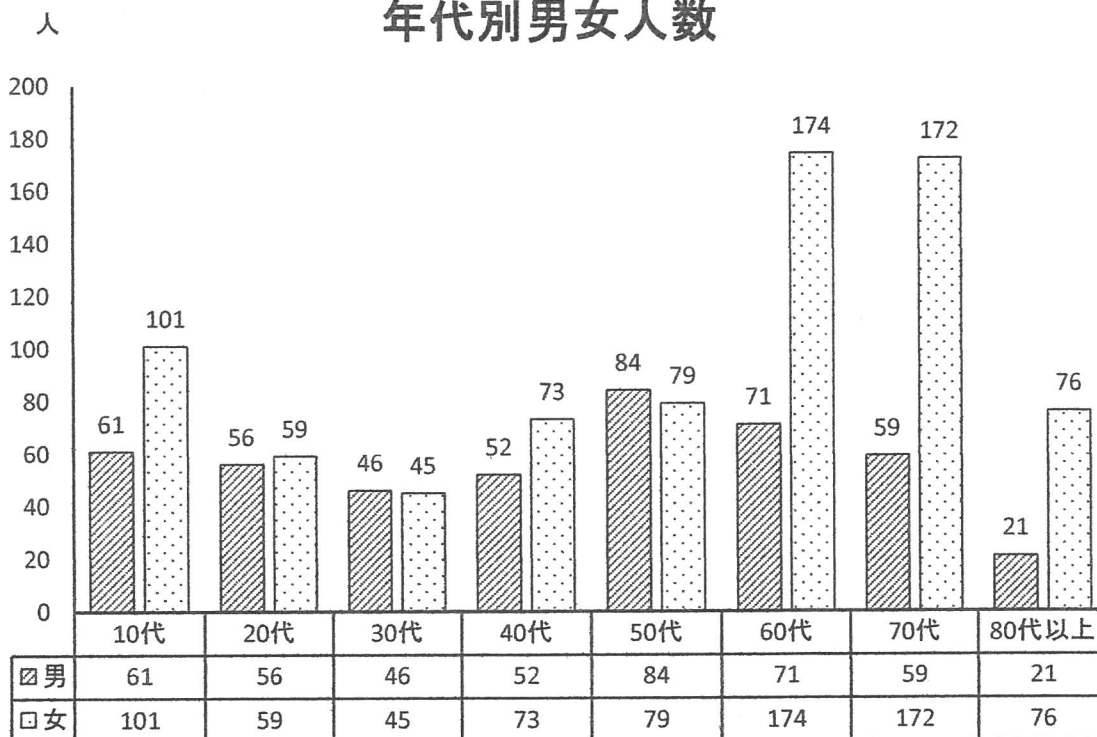
有効回答率 94.5%

1,229人

男性 450人 (36.6 %)

女性 779人 (63.4%)

年代別男女人数



- ・回答者 1,229人のうち、男性は450人(36.6%)、女性は779人(63.4%)です。
- ・60代・70代女性が多いのが特徴です、他の年代はこれまでよりばらつきが減っています。
- ・年代は 10代 162人(13.2%) 20代 115人 (9.3%) 30代 91人 (7.4%)
 40代 125人(10.2%) 50代 163人 (13.3%) 60代 245人(19.9%)
 70代 231人(18.8%) 80代以上 97人 (7.9%)
- ・10代から30代は368人で約30%、40代まで含めると493人で約40%、全体の4割を占めています。
- ・今年も2大学の学生参加により、10代162人中 144人、20代115人中 44人、
 10代20代の合計 277人中 188人(67.9%)が学生でした。
 昨年の学生は269人中 204人(75.8%)でしたので、今年は7.9ポイントの減となっています。

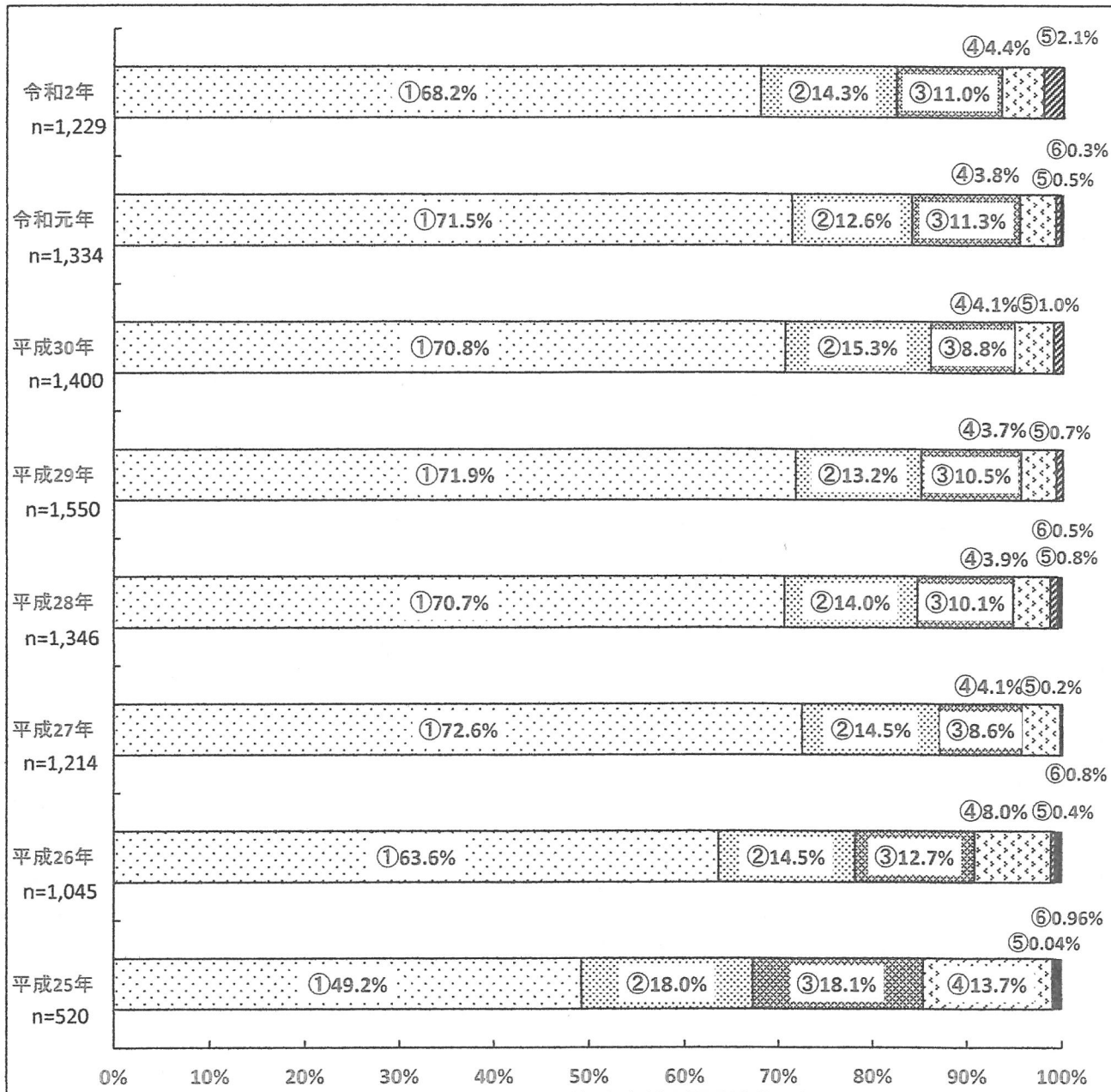
《 回答者の市町村名 》

福島市、会津若松市、郡山市、いわき市、白河市、須賀川市、喜多方市、相馬市、
 二本松市、田村市、南相馬市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、
 鏡石町、南会津町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、会津美里町、西郷村、中島村、
 矢吹町、棚倉町、石川町、玉川村、浅川町、小野町、浪江町、飯舘村。

質問1「食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？」

以下からひとつを選択

- ①国産(居住地付近の地場産) ②国産(①以外の福島県産) ③国産(近隣県産)
④国産(①～③以外の産地) ⑤外国産 ⑥未回答



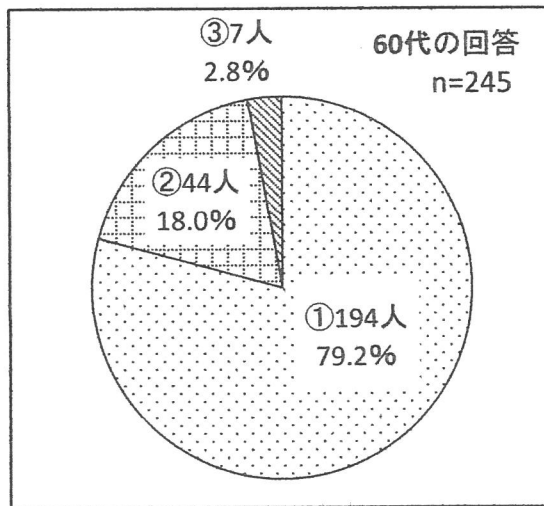
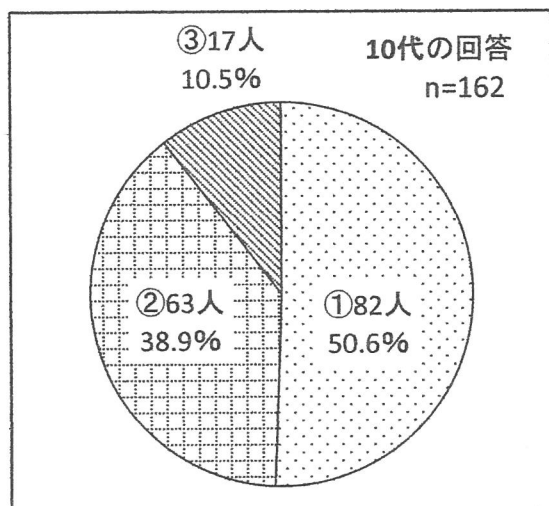
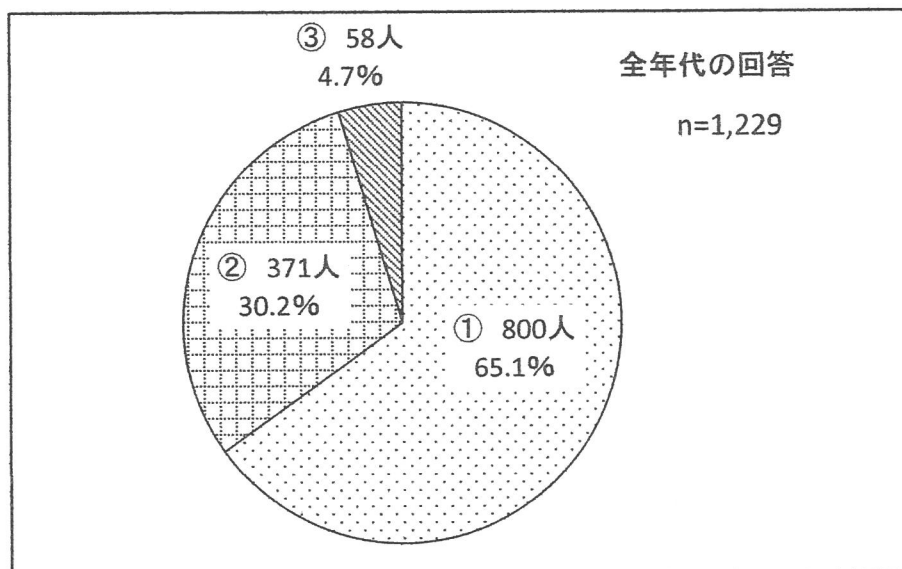
令和2年の結果は、

- ・ 平成27年以降、8割以上の方が①地場産か②福島県産を購入すると回答しています。
- ・ ①地場産と②福島県産は全体の82.5%、昨年の84.1%より1.6ポイント減少しています。
- ・ 30代以上のすべての年代で、8割以上の方が地場産や福島県産を購入すると回答しています。
- ・ 外国産を購入すると答えた方は10代、20代が多く、21人でその年代の7.6%です。

質問2 「福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています。ほとんど検出されていませんが、知っていますか？」

以下からひとつを選択

- ① 検査も検査結果も知っている
- ② 検査は知っていたが検査結果は知らない
- ③ 検査も検査結果も知らない



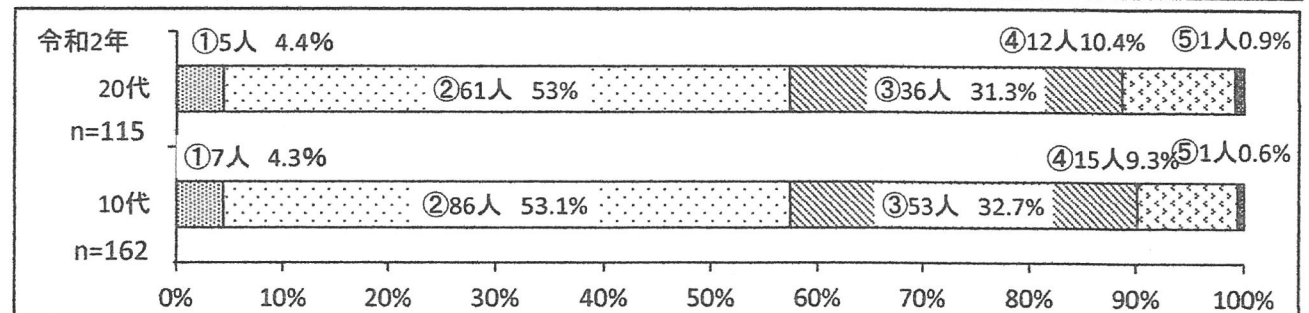
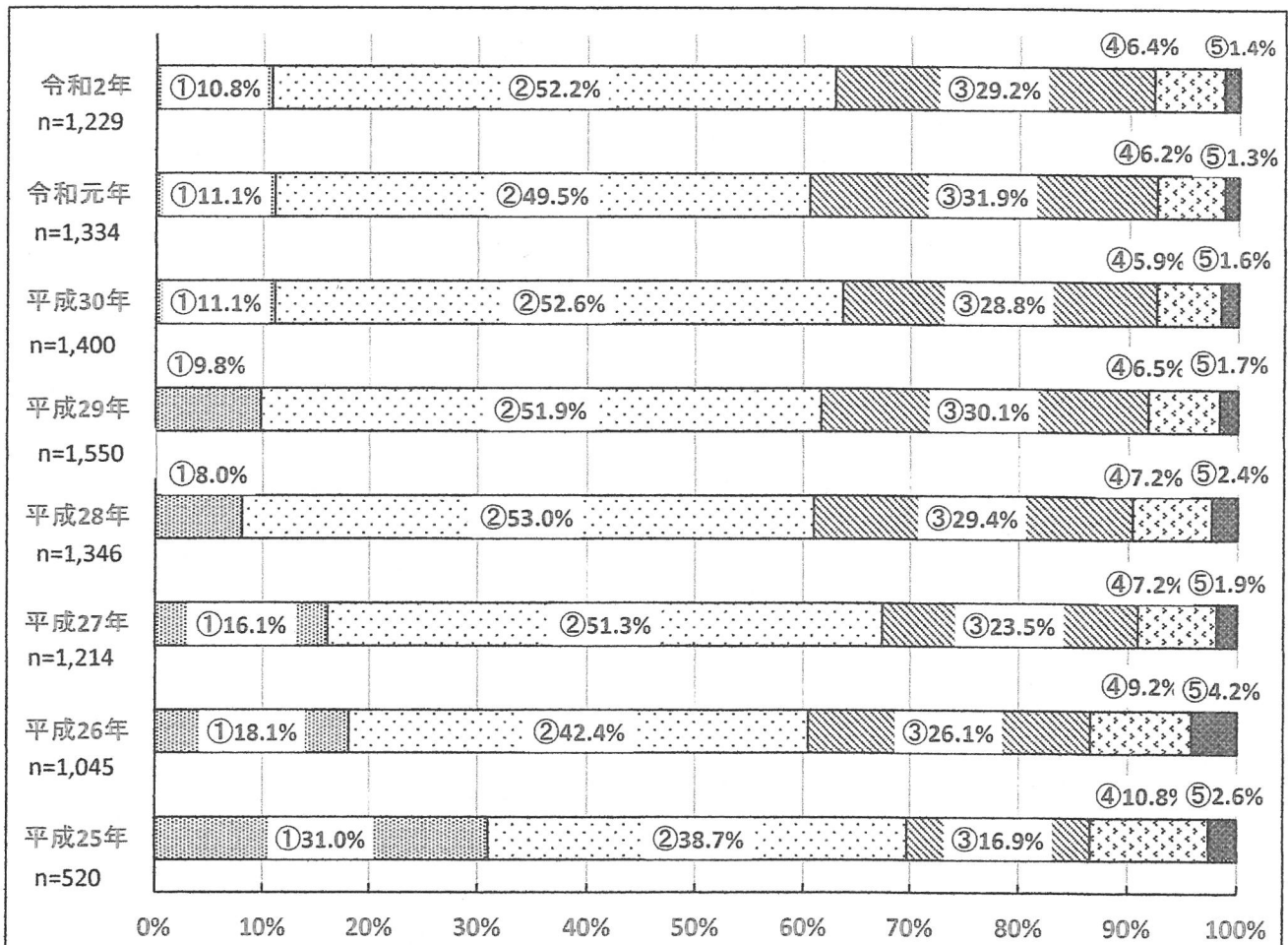
- ・① 検査も検査結果も知っている人は800人(65.1%)で昨年の956人(71.7%)より6.6ポイント減少しました。
- ・② 検査は知っていたが検査結果は知らない人は371人(30.2%)で、昨年の332人(24.9%)より5.3ポイント増加しました。
- ・③ 検査も検査結果も知らない人は58人(4.7%)で、昨年の46人(3.4%)より1.3ポイント増加しました。

* 放射性物質の検査結果の公表について、10代で大きな特徴が見られました。
10代の162人中、①が82人(50.6%)で半数を超えましたが、昨年の58.7%より減少しました。
一方、60代では①が194人(79.2%)と、年代により違いが見られました。

質問3 「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど 小さな低線量のリスクをどう受け止めますか？」

以下からひとつを選択

- ①基準値以内であっても、少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ②基準値以内であれば、他の発がん性要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ③放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
- ④十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ⑤その他

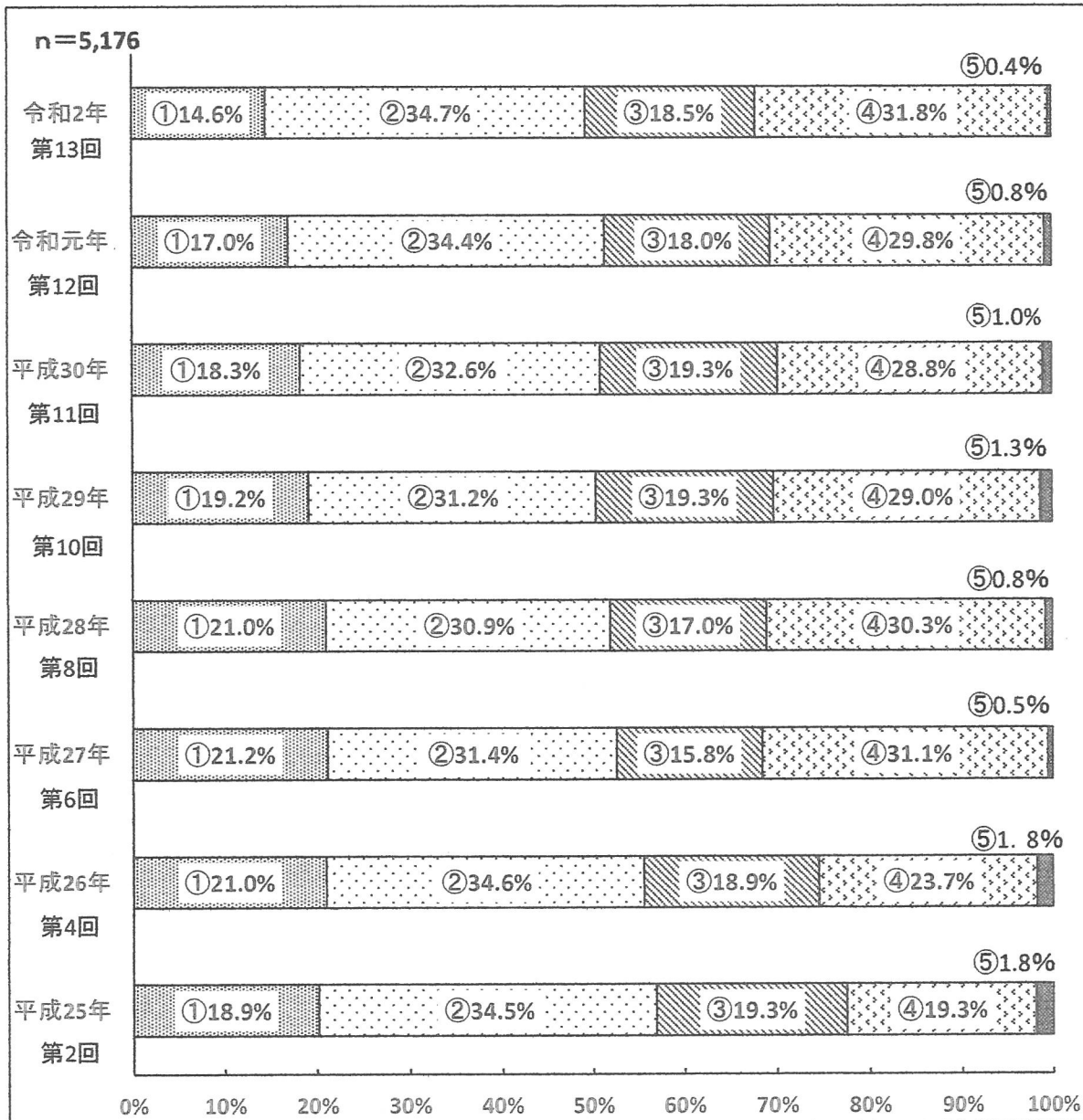


- ・全体では、②および③を選択した人の割合は81.4%で、平成28年以降8割以上を占めています。
- ・「①受け入れられない」が全体では10.8%と昨年と比較して0.3ポイント減少しました。
10代及び20代(回答者は主に大学生)では、約4%だったのに対して、年代が高くなると①の割合が高くなり、特に80代では約21%と高くなっています。
- ・「③ことさら気にしない」は、10代で32.7%、20代で31.3%、30代で36.3%、40代33.6%、50代33.3%、60代25.3%、70代24.7%、80代以上22.7%。50代までの方は、60代以降よりやや高くなっています。
- ・【消費者庁風評調査13回】では、①14.6% ②34.7% ③18.5% ④31.8% ⑤0.4%で大きな経年変化は見られません。④が31.8%で、当団体の6.4%と比較して25.4ポイントの大きな差があります。

参考【消費者庁】「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか？」

以下からひとつを選択

- ①基準値以内であっても、少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ②基準値以内であれば、他の発がん性要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ③放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
- ④十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ⑤その他



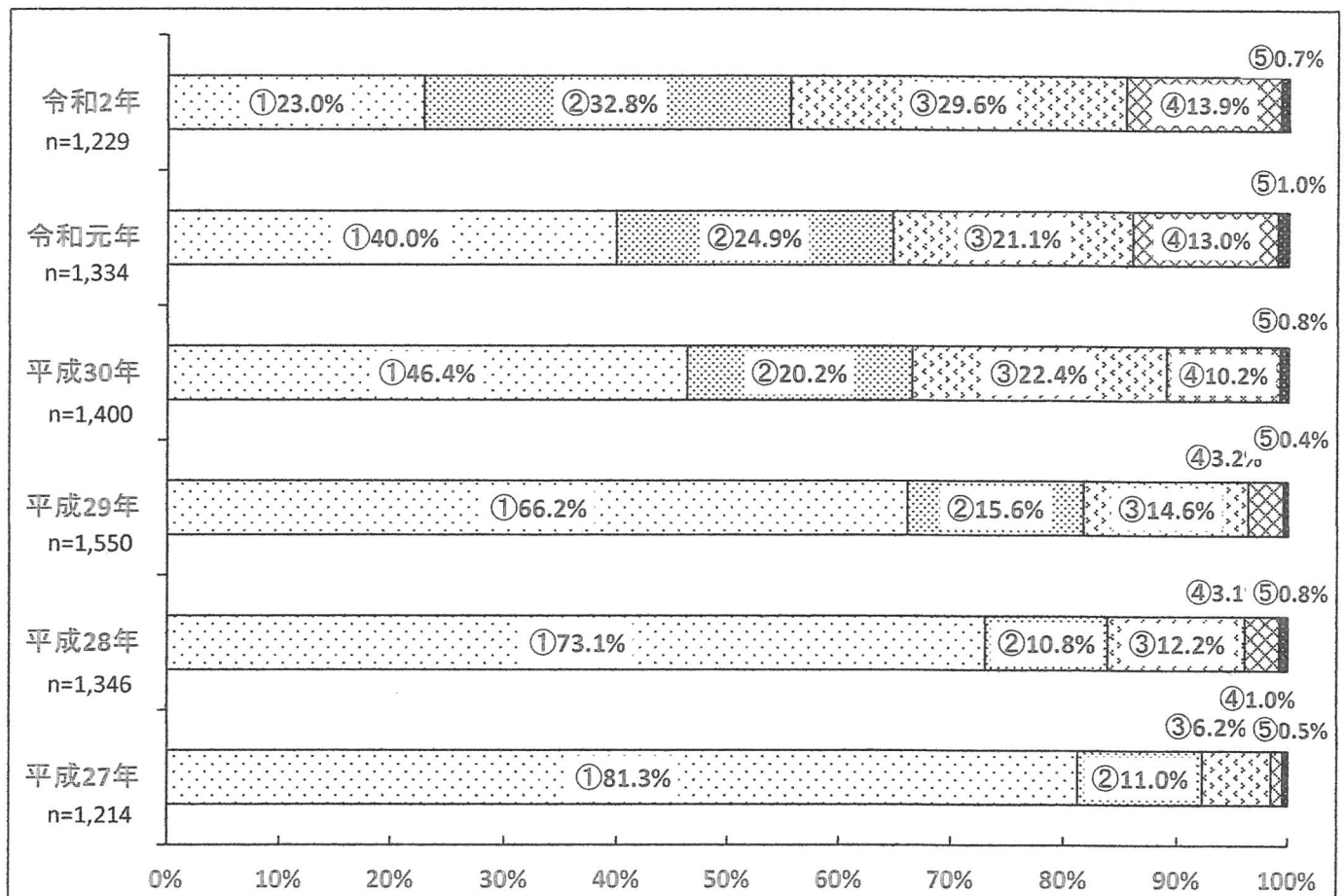
【消費者庁風評調査13回】では

- ・ ①14.6% ②34.7% ③18.5% ④31.8% ⑤0.4%です。
- ・ 経年変化は多少あるものの、大きな変化がないのが特徴です。
- ・ 消費者庁と当団体を比較すると、②③は当団体が10ポイント以上高く、消費者庁の④は31.8%で、当団体の6.4%と比較して25.4ポイントの大きな差があります。

質問4-①「福島県産米はこれまで全量全袋検査をしていました。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表し、令和元年産米で基準値超過がないことから、令和2年産米より、避難指示等のあった12市町村を除き、旧市町村ごとの抽出検査(モニタリング)に移行する予定です。今後の検査について伺います。」

以下からひとつを選択

- ① これまでどおり、すべて検査
- ② 米を作っている農家ごとにサンプル検査
- ③ 市町村単位で、サンプルを選んで検査
- ④ 福島県産米すべてを検査しなくてもよい
- ⑤ その他



【 米の全量全袋検査の今後について 】

- ・一番多かったのは、
「②米を作っている農家ごとにサンプル検査」は403人(32.8%)と 昨年より7.9ポイント増加しました。
- ・次に多かったのは、
「③市町村単位で、サンプルを選んで検査」は363人(29.6%)と 昨年より8.5ポイント増加しました。
- ・三番目は
「①福島県産米はこれまでどおり、すべて検査」と回答した方が、283人(23.0%)。
令和元年に比べて17ポイント減少し、平成27年の81.3%と比べると3分の1以下に減少しました。
- ・「④すべてを検査しなくてもよい」は171人(13.9%)、昨年より約0.9ポイント増加しました。

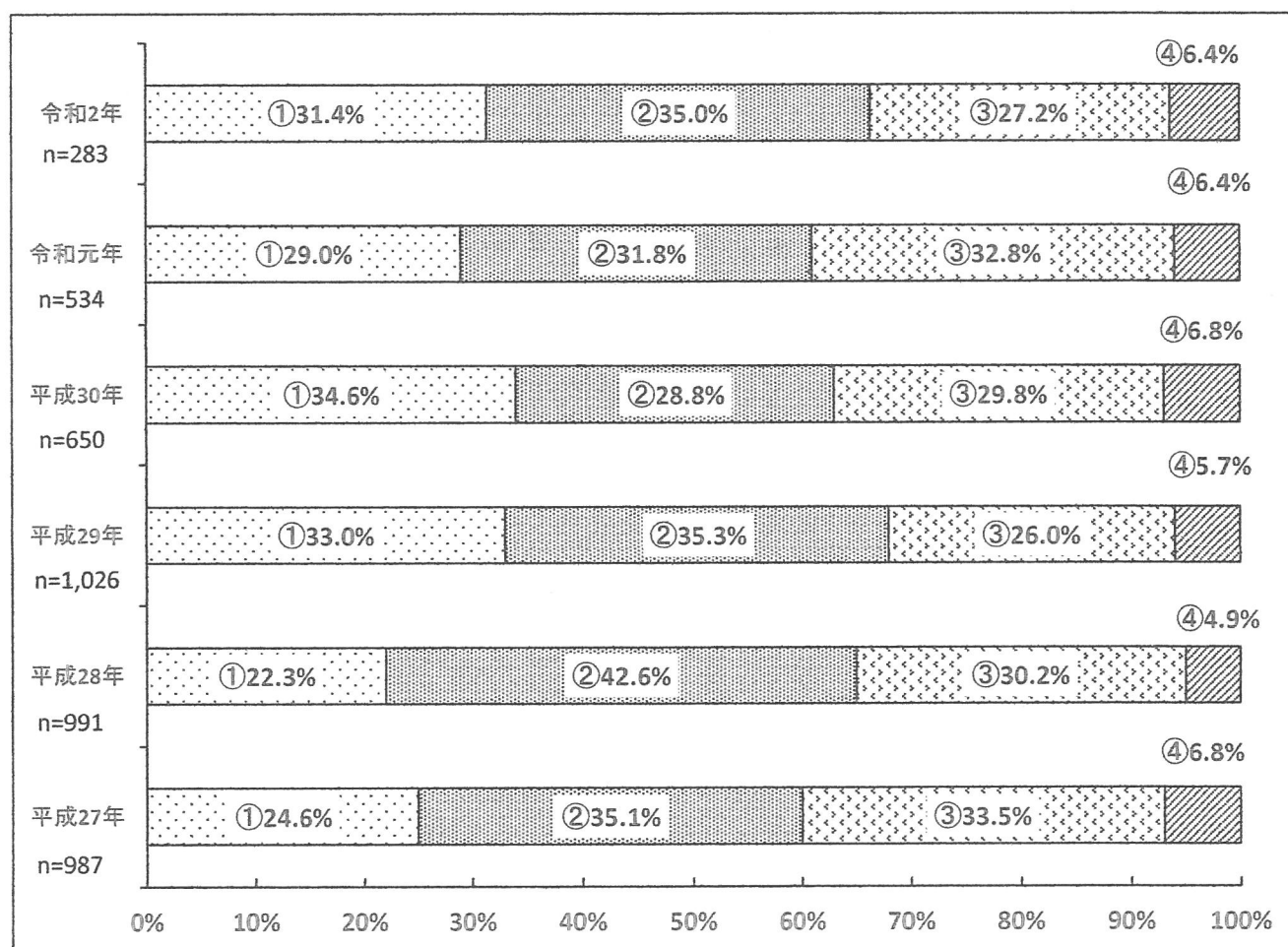
* 6割以上の方がサンプル検査(②と③)でよいと回答しており、今年の大きな特徴です。

質問 4-② 「福島県産米の全量全袋をこれまでどおり、すべて検査」
と答えた方(283人)に伺いました。

「全量全袋検査は、あと何年必要ですか？」

以下からひとつを選択

- ① あと 1 ～ 3 年必要
- ② あと 5 ～ 10 年必要
- ③ あと 10年以上必要
- ④ その他



質問4-① 「福島県産米の全量全袋をこれまでどおり、すべて検査」と答えた方(283人)に
「あと何年必要か」伺いました。

- ① あと 1～3 年必要 ⇒ 31.4%(89人)、昨年より約2.4ポイント増加しました。
- ② あと 5～10 年必要 ⇒ 35%(99人)、昨年より3.2ポイント増加しました。
- ③ あと 10年以上必要 ⇒ 27.2%(77人)、昨年より約5.6ポイント減少しました。

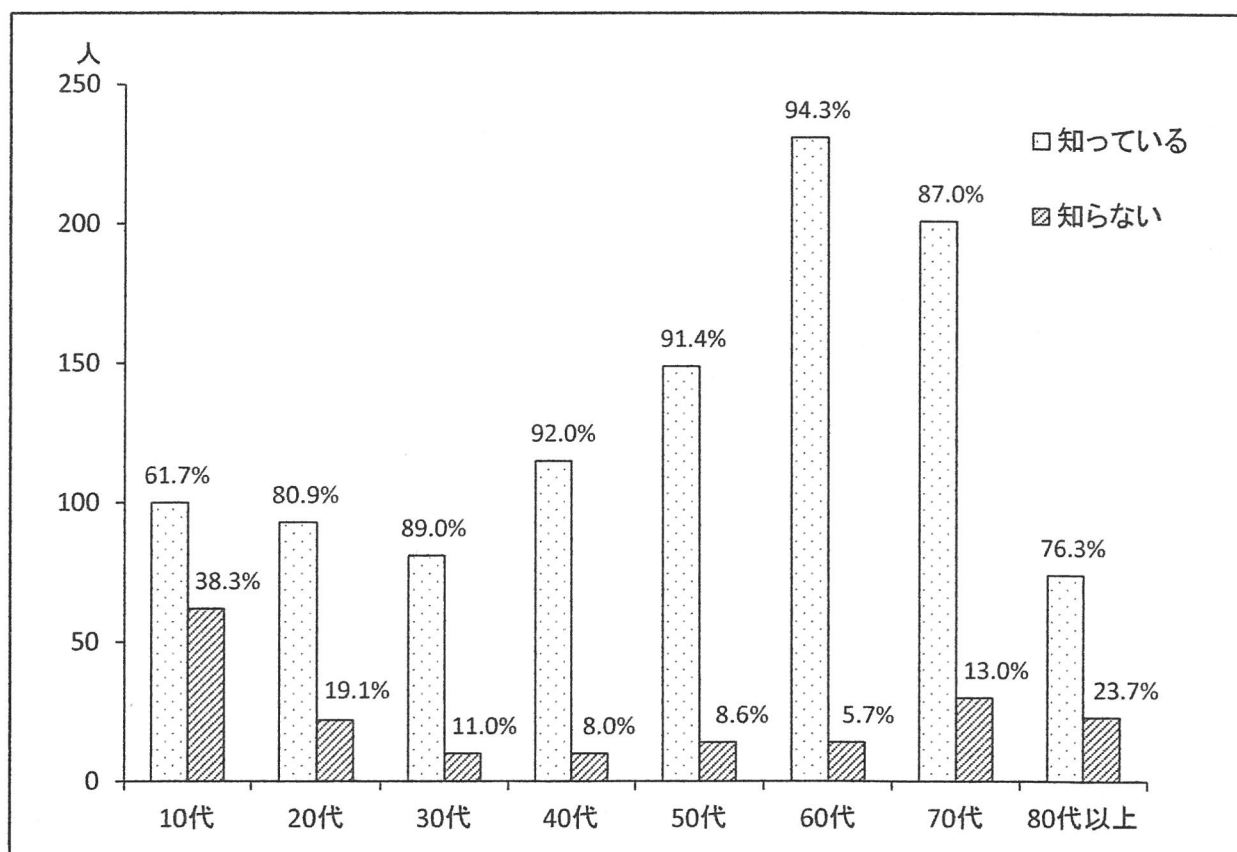
・全量全袋検査を望んでいる方(283人)のうち、「② あと5年から10年継続してほしい」という方が一番多い結果となりました。

・①②③の割合に若干の差はありますが、ほぼ同じ割合になっています。

質問5 「現在福島県内にはモニタリングポスト(リアルタイム線量測定システム)が設置されていますが、知っていますか。」

① 知っている

② 知らない



【 モニタリングポスト(リアルタイム線量測定システム)が設置されていることについて】

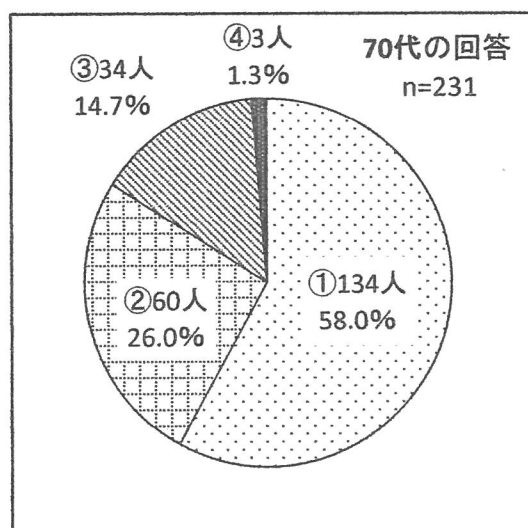
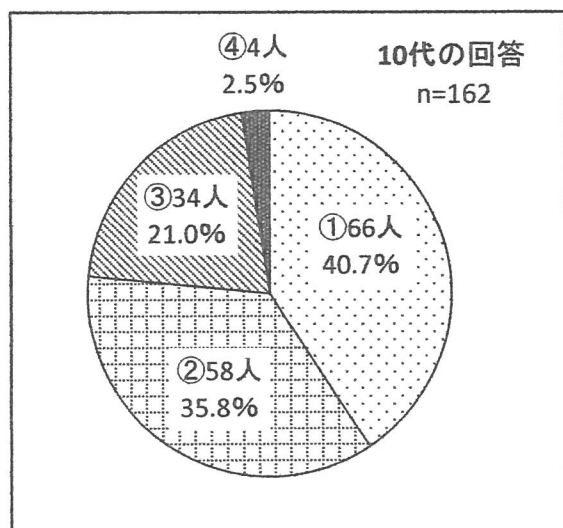
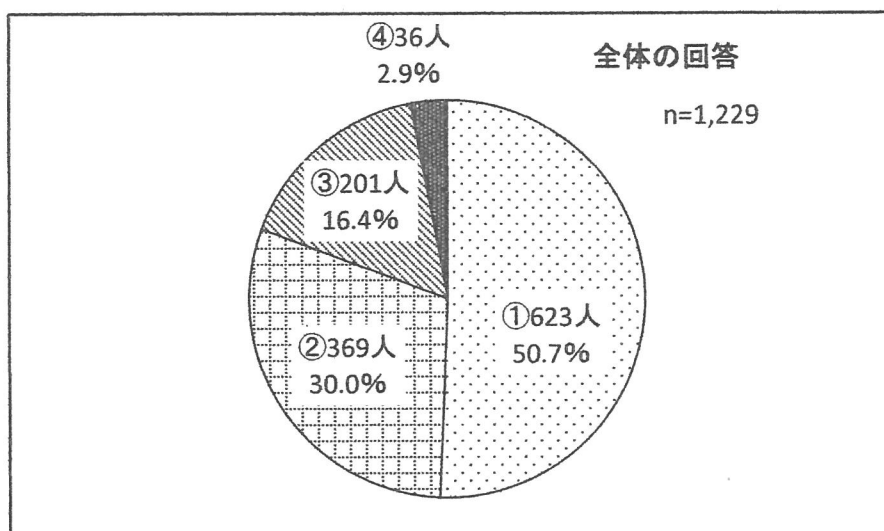
・「知っている」が全体の84.9%でした。

・年代別で知っている方の割合が一番多かったのは、60代の94.3%(知らない方は5.7%)に対し、知っている方が少なかったのは、10代の61.7%(知らない方は38.3%)でした。

質問6 「現在設置されているモニタリングポスト(リアルタイム線量測定システム)の配置見直しが一時延期になり、当面は継続になりました。今後について伺います。」

以下からひとつを選択

- ① モニタリングポストは撤去せず、測定はそのまま継続してほしい。
- ② 線量が低くなっているモニタリングポストは撤去し、それを避難指示区域等へ設置してほしい。
- ③ 配置の見直しについて、住民と話し合いをしてほしい。
- ④ その他



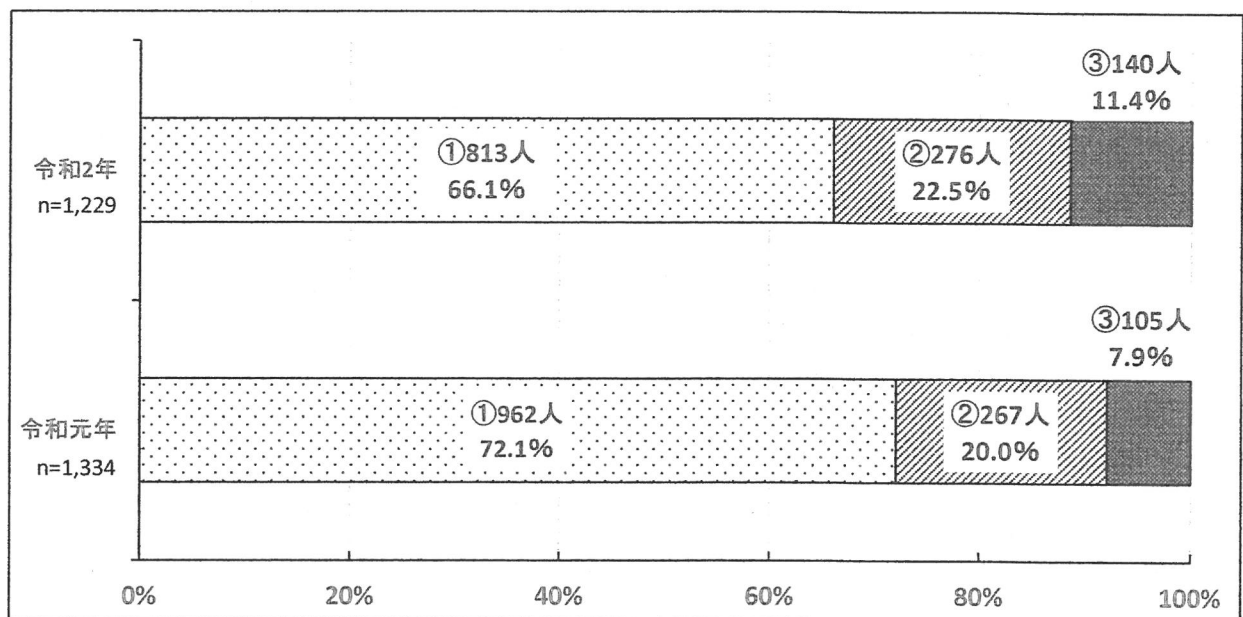
・モニタリングポストは撤去せず、測定継続を望む方が 50.7%、配置の見直しを希望する方は30.0%、配置の見直しについては住民と話し合してほしい方が16.4%です。

・どの年代も①そのまま継続してほしいが一番多かったです。しかし、年代により希望する割合に違いがありました。

質問7 「福島県消費者団体連絡協議会では『エシカル消費で社会を変えよう!』をテーマに活動しています。『エシカル消費』について伺います。」

以下からひとつを選択

- ① 「エシカル消費」を知らない
- ② 「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らない
- ③ 「エシカル消費」の内容まで知っている

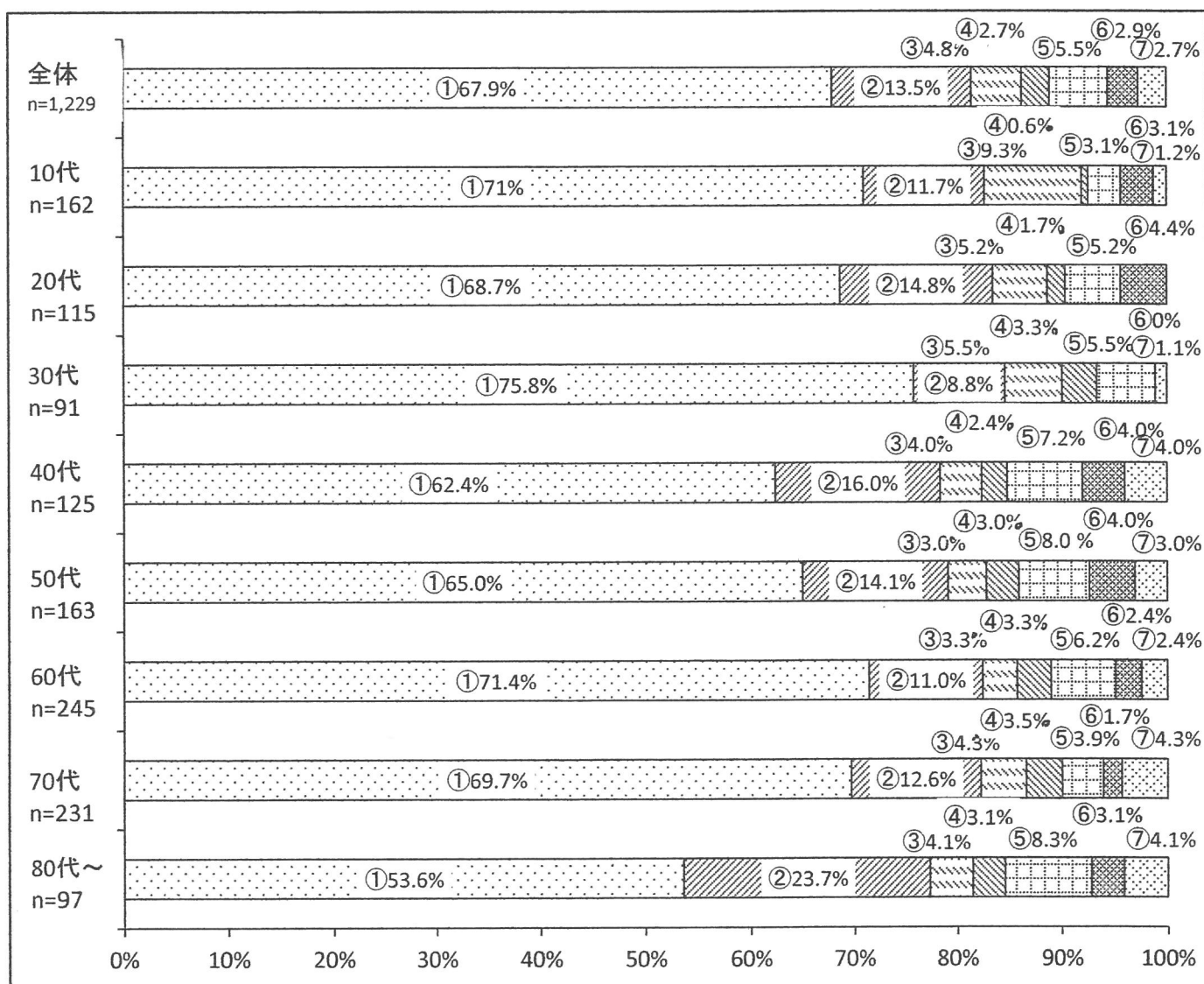


- ・どの年代も①「エシカル消費」を知らないが一番多く、813人(66.1%)で、昨年より6ポイント減少しました。特に、10代が一番割合が多く 144人(88.9%)が知らないと回答しています。
- ・次に多かったのは、②「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らない」が 276人(22.5%)で、昨年より2.5ポイント増加しました。
- ・③「エシカル消費」の内容まで知っていると回答したのは、140人(11.4%)で昨年より3.5ポイント増加しました。60代が一番割合が多く39人(15.9%)、次に80代の15人(15.5%)、40代17人(13.6%)、70代(13.4%)でした。

質問8 「『エシカル消費』に関する消費行動として次のようなことがありますか、
あなたにできることはありますか？」

以下からひとつを選択

- ① 地元の産品を買う(地産地消によって地域活性化や輸送エネルギーを削減)
- ② エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ
- ③ フェアトレード商品を選ぶ(発展途上国の原料や製品を適正な価格で取引された商品)
- ④ 福祉作業所などの製品を買う(障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ)
- ⑤ 被災地の産品を買う(被災地の特産品を消費することで経済復興を応援)
- ⑥ 寄付付き商品を選ぶ(売り上げの一部を環境保全やボランティアに寄付する商品)
- ⑦ その他

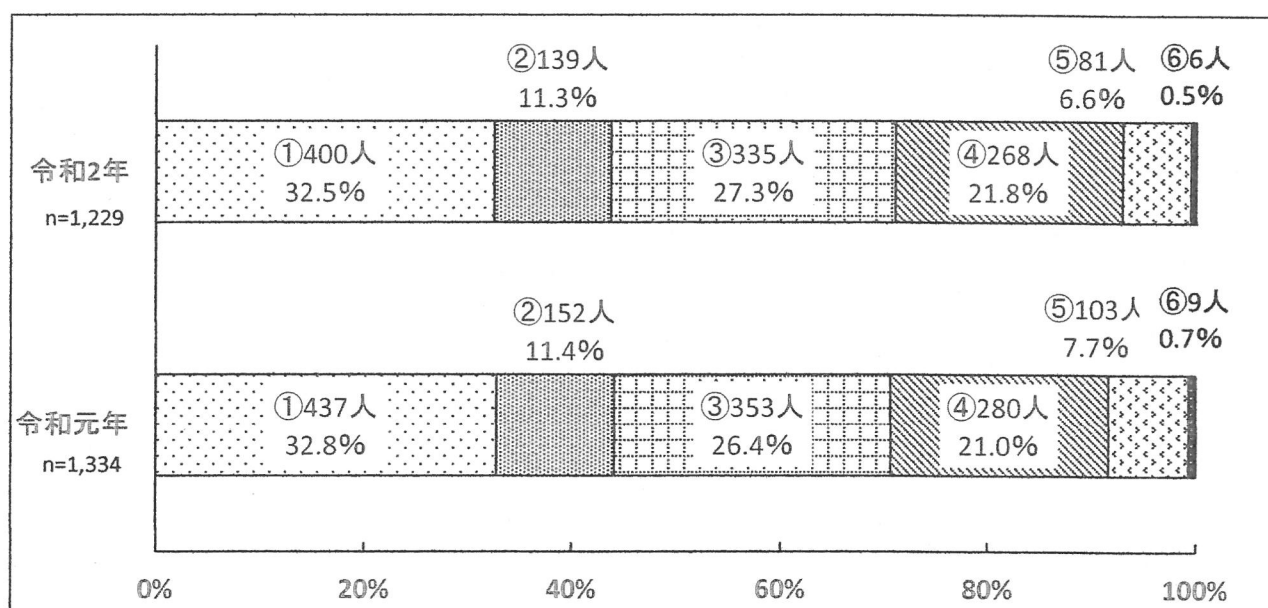


- ・どの年代も「①地元の産品を買う」が最も多く、67.9%(835人)、年代では30代(91人)の75.8%(69人)が一番多かったです。
- ・次に多かったのは、「②エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ」で、13.5%(166人)でした。
- ・第3位は、「⑤被災地の産品を買う」が5.5%(68人)でした。

質問9 「地球温暖化、プラスチックごみ汚染の問題が緊急の課題になっています。私たちの環境を守るため、日常生活で大切なことは何ですか？」

以下からひとつを選択

- ① 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- ② 使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- ③ マイバッグ、マイボトルを持参する
- ④ リデュース(ごみを減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再利用)する
- ⑤ エネルギー(例:電気、ガス、ガソリン等)を大切に使い、省エネにつとめる
- ⑥ その他



多かった順に並べると

- 1位 ① 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- 2位 ③ マイバッグ、マイボトルを持参する
- 3位 ④ リデュース(ごみを減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再利用)する
- 4位 ② 使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- 5位 ⑤ エネルギー(例:電気、ガス、ガソリン等)を大切に使い、省エネにつとめる
- 6位 ⑥ その他

・10代・20代で一番多かったのは、「③ マイバッグ、マイボトルを持参する」でした。

・その他の年代はいずれも、「① 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う」が第1位でした。

・令和2年は令和元年と同じ傾向が見られました。

アンケート調査を実施して！

- 1 平成23年3月11日の東日本大震災からもうすぐ10年を迎えます。福島県は原発事故により県内外へ避難された方も多くおりましたが、除染等により帰還困難区域を除き、避難指示解除準備区域及び居住制限区域が解除され、次第に故郷に戻ってきています。また、風評による農林水産物の売上げは震災前の状況には至っていませんが、少しずつ回復しています。当団体では、平成23年に体験記録集を作成し、平成24年から「食や放射能、風評に関する意識調査」を9年間実施してきました。
- 2 回答者は1,229人(昨年は1,334人)、皆様のご協力に大変感謝申し上げます。回答者の数は60代、70代で全体の38.7%です、この点をご考慮ください。60代、70代を除けば、年代ごとの人数の差は少なくなりました。
- 3 今年も2大学の学生参加により、10代162人中144人、20代115人中44人(計277人中188人)から回答をいただきました。10代・20代の68%が学生です。
- 4 食料品の購入では、この6年間、地場産・県内産を最も多く購入すると回答した方が8割を超え県内産志向が続いています。
- 5 福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています。全体の回答で一番多かったのは、検査も検査結果も知っている、800人(65%)です。
- 6 放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクについては、「基準値以内であれば、他の発がん性要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる」を選択した人は、52.2%と一番多くなっています。この傾向は6年間続いています。
- 7 福島県産米はこれまで全量全袋検査をしていました。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表し、令和元年産米で基準値超過がないことから、令和2年産米より、避難指示等のあった12市町村を除き、旧市町村ごとの抽出検査(モニタリング)に移行しました。
今後の検査に対して一番多かったのは、「②米を作っている農家ごとにサンプル検査」で、403人(32.8%)と昨年より約8ポイント増加しました。次に多かったのは、③市町村単位でサンプル検査で363人(29.6%)と昨年より8.5ポイント増加しました。①の全量全袋検査を希望する方は、283人(23%)と昨年より約17ポイント減少しました。平成27年の81.3%と比べると3分の1以下に減少しました。
米の全量全袋検査ではなく、農家ごと、市町村単位でのサンプル検査と回答した方は全体の62.4%でした。また、約14%の方が、すべて検査しなくてもよいと回答したのが特徴です。検査結果は「ふくしまの恵み安全対策協議会」「ふくしま新発売」HPで公表していますので、自分で調べることができます。
- 8 モニタリングポストの配置見直しが検討されていることについては、モニタリングポストは撤去せず、測定継続を望む人が51%、配置の見直しを希望する人は30%、配置の見直しは住民と話し合ってほしい人が16%でした。どの年代も撤去せず測定をそのまま継続してほしいが一番多くなっています。昨年と同様の傾向がありました。
- 9 昨年に引き続き、「エシカル消費」について取り上げ質問しました。「エシカル消費」は分かりやすく言うと「思いやり消費」のことです。人も自然も傷つけず、みんなが笑顔になる買い物をしたいという思いから、人や社会、環境に配慮した「物」や「サービス」を選んで消費することです。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs:エスディーゼーズ)」、つまり「世界を変えるための17の目標」の12番目、「つくる責任・つかう責任」で「エシカル消費」が求められています。この「エシカル消費」は福島の風評をなくすことに繋がると私たちは考えています。
この「エシカル消費」の言葉を知っているか、内容まで知っているかなどを伺いました。「エシカル消費」を知らない方は、全体の66%と昨年より6ポイント減少しました。また、「エシカル消費」を実践するため、「どのような消費行動ができるか」については、「地元の産品を買う」が68%と一番多く、次は「エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ」が14%でした。
- 10 地球温暖化防止やプラスチックごみ問題などに対応するため、日常生活で大切なことを伺いました。1番多かったのは、「買い物は必要なものを、必要な量だけ買う」が32.5%、次は「マイバッグ、マイボトルを持参する」が27%でした。
- 11 私たちは「エシカル消費」を心がけ、毎日の買い物を通し、消費行動を変えていかなければならないと思います。また、消費者への啓発が重要と考えます。

令和2年度「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会 〈 質問ごとの年代別集計表 〉

(人)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
計	1229	162	115	91	125	163	245	231	97
男	450	61	56	46	52	84	71	59	21
女	779	101	59	45	73	79	174	172	76

質問1「食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？」(ひとつに○)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	国産(居住地付近の地場産)	838	85	61	61	75	117	191	177	71
②	国産(①以外の福島県産)	176	15	18	14	26	25	32	33	13
③	国産(近隣県産)	135	36	19	12	12	12	16	17	11
④	国産(①～③以外の産地)	54	16	6	4	11	7	4	4	2
⑤	外国産	26	10	11	0	1	2	2	0	0
⑥	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0

質問2「福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています。

ほとんど検出されていませんが、知っていますか？」(ひとつに○)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	検査も検査結果も知っている	800	82	60	47	85	119	194	147	66
②	検査は知っていたが、 検査結果は知らない	371	63	47	40	34	38	44	78	27
③	検査も検査結果も知らない	58	17	8	4	6	6	7	6	4

質問3「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクを
どう受け止めますか？」(ひとつに○)

- ① 基準値以内であっても、少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ② 基準値以内であれば、他の発がん性要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ③ 放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
- ④ 十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ⑤ その他

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	受け入れられない	132	7	5	6	17	20	25	32	20
②	受け入れられる	642	86	61	43	58	82	139	128	45
③	ことさら気にしない	359	53	36	33	42	54	62	57	22
④	リスクを考えられない	79	15	12	7	6	4	15	12	8
⑤	その他	17	1	1	2	2	3	4	2	2

質問4「福島県産米はこれまで全量全袋検査をしていました。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表し、令和元年産米で基準値超過がないことから、令和2年産米より、避難指示等のあった12市町村を除き、旧市町村ごとの抽出検査（モニタリング）に移行する予定です。今後の検査について伺います。」（ひとつに〇）ました。

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	これまでどおり、すべて検査	283	27	12	17	32	33	65	64	33
	〃 あと1～3年必要	89	14	5	7	8	6	16	16	17
	〃 あと5～10年必要	99	6	4	4	8	15	28	26	8
	〃 あと10年以上必要	77	5	3	5	13	9	19	17	6
	〃 その他	18	2	0	1	3	3	2	5	2
②	米を作っている農家ごとにサンプル検査	403	62	40	36	49	51	71	68	26
③	市町村単位で、サンプルを選んで検査	363	53	42	22	32	53	79	61	21
④	福島県産米すべてを検査しなくてもよい	171	17	21	15	11	25	28	37	17
⑤	その他	9	3	0	1	1	1	2	1	0

質問5「現在福島県内にはモニタリングポスト（リアルタイム線量測定システム）が設置されていますが、知っていますか？」

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	知っている	1044	100	93	81	115	149	231	201	74
②	知らない	185	62	22	10	10	14	14	30	23

質問6「現在設置されているモニタリングポストの配置見直しが一時延期になり、当面は継続になりました。今後について伺います。」（ひとつに〇）

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	撤去せず、測定はそのまま継続してほしい	623	66	41	43	61	84	140	134	54
②	線量が低いポストを避難指示区域等へ配置してほしい	369	58	45	30	44	46	62	60	24
③	配置の見直しは住民と話し合いをしてほしい	201	34	26	12	16	27	37	34	15
④	その他	36	4	3	6	4	6	6	3	4

質問 7「福島県消費者団体連絡協議会では『エシカル消費で社会を変えよう！』をテーマに活動しています。『エシカル消費』について伺います。」(ひとつに○)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	「エシカル消費」を知らない	813	144	86	61	85	109	151	131	46
②	「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らない	276	14	22	21	23	36	55	69	36
③	「エシカル消費」の内容まで知っている	140	4	7	9	17	18	39	31	15

質問 8「『エシカル消費』に関する消費行動として次のようなことがありますか、あなたにできることはありますか？」(ひとつに○)

- ① () 地元の産品を買う(地産地消によって地域活性化や輸送エネルギーを削減)
- ② () エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ
- ③ () フェアトレード商品を選ぶ(発展途上国の原料や製品を適正な価格で取引された商品)
- ④ () 福祉作業所などの産品を買う(障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ)
- ⑤ () 被災地の産品を買う(被災地の特産品を消費することで経済復興を応援)
- ⑥ () 寄付付き商品を選ぶ(売り上げの一部を環境保全やボランティアに寄付する商品)
- ⑦ () その他

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	835	115	79	69	78	106	175	161	52
②	166	19	17	8	20	23	27	29	23
③	59	15	6	5	5	6	8	10	4
④	33	1	2	3	3	5	8	8	3
⑤	68	5	6	5	9	11	15	9	8
⑥	35	5	5	0	5	7	6	4	3
⑦	33	2	0	1	5	5	6	10	4

質問 9「地球温暖化、プラスチックごみ汚染の問題が緊急の課題になっています。私たちの環境を守るため、日常生活で大切なことは何ですか？」(ひとつに○)

- ① () 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- ② () 使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- ③ () マイバック、マイボトルを持参する
- ④ () リデュース(ごみを減らす)、リユース(くり返し使う)、リサイクル(再利用)する
- ⑤ () エネルギー(例：電気、ガス、ガソリン等)を大切に使い、省エネにつとめる
- ⑥ () その他

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	400	46	31	37	37	51	74	78	46
②	139	24	16	7	19	20	17	26	10
③	335	57	45	26	32	35	73	47	20
④	268	26	18	16	31	42	65	55	15
⑤	81	8	5	5	6	12	16	25	4
⑥	6	1	0	0	0	3	0	0	2

令和2年度「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会

平成23年の東日本大震災から今年で10年目になります。当団体では今年も震災後の調査をします、10年目の区切りになりますので皆様のご協力よろしくお願いします。

市町村名		性別	() 男性、() 女性
年代に○	・10代 ・20代 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代 ・80代以上		

質問1「食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？」（ひとつに○）

- ① () 国産（居住地付近の地場産）
- ② () // （①以外の福島県産）
- ③ () // （近隣県産）
- ④ () // （①～③以外の産地）
- ⑤ () 外国産

質問2「福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています。
ほとんど検出されていませんが、知っていますか？」（ひとつに○）

- ① () 検査も検査結果も知っている。
- ② () 検査は知っていたが検査結果は知らない。
- ③ () 検査も検査結果も知らない

質問3「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクを
どう受け止めますか？」（ひとつに○）

- ① () 基準値以内であっても、少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ② () 基準値以内であれば、他の発がん性要因（喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど）と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ③ () 放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
- ④ () 十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ⑤ () その他 ()

質問4「福島県産米はこれまで全量全袋検査をしていました。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表し、令和元年産米で基準値超過がないことから、令和2年産米より、避難指示等のあった12市町村を除き、旧市町村ごとの抽出検査（モニタリング）に移行する予定です。今後の検査について伺います。」（ひとつに○）

- ① () これまでどおり、福島県産米をすべて検査した方がよい。あと何年ですか（ひとつに○）
↳ () あと1～3年・() あと5～10年・() あと10年以上・() その他 () 年
- ② () 米を作っている農家ごとに、サンプルを選んで検査すればよい。
- ③ () 市町村単位で、サンプルを選んで検査すればよい。
- ④ () これまでの検査結果から、福島県産米はもう検査しなくてもよい。
- ⑤ () その他（具体的には、



【うらへ続きます】

質問5「現在福島県内にはモニタリングポスト（リアルタイム線量測定システム）が設置されていますが、知っていますか？」

- ①（ ）知っている
- ②（ ）知らない

質問6「現在設置されているモニタリングポストの配置見直しが一時延期になり、当面は継続になりました。今後について伺います。」（ひとつに〇）

- ①（ ）モニタリングポストは撤去せず、測定はそのまま継続してほしい。
- ②（ ）線量が低くなっているモニタリングポストは撤去し、それを避難指示区域等へ配置してほしい。
- ③（ ）配置の見直しについて、住民と話し合いをしてほしい。
- ④（ ）その他（具体的には、

質問7 福島県消費者団体連絡協議会では『エシカル消費で社会を変えよう！』をテーマに活動しています。「エシカル消費」（下記※を参照）について伺います。（ひとつに〇）

- ①（ ）「エシカル消費」を知らない
- ②（ ）「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らない
- ③（ ）「エシカル消費」の内容まで知っている

質問8「エシカル消費」に関する消費行動として次のようなことがありますか、あなたにできることはありますか？」（ひとつに〇）

- ①（ ）地元の産品を買う（地産地消によって地域活性化や輸送エネルギーを削減）
- ②（ ）エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ
- ③（ ）フェアトレード商品を選ぶ（発展途上国の原料や製品を適正な価格で取引された商品）
- ④（ ）福祉作業所などの産品を買う（障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ）
- ⑤（ ）被災地の産品を買う（被災地の特産品を消費することで経済復興を応援）
- ⑥（ ）寄付付き商品を選ぶ（売り上げの一部を環境保全やボランティアに寄付する商品）
- ⑦（ ）その他（具体的には、

質問9「地球温暖化、プラスチックごみ汚染の問題が緊急の課題になっています。私たちの環境を守るため、日常生活で大切なことは何ですか？」（ひとつに〇）

- ①（ ）買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- ②（ ）使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- ③（ ）マイバック、マイボトルを持参する
- ④（ ）リデュース（ごみを減らす）、リユース（くり返し使う）、リサイクル（再利用）する
- ⑤（ ）エネルギー（例：電気、ガス、ガソリン等）を大切に使い、省エネにつとめる
- ⑥（ ）その他（

※「エシカル消費」とは、直訳すると「倫理的・道徳的消費」、もっと分かりやすく言うと「思いやり消費」のことです。つまり、人も自然も傷つけず、みんなが笑顔になる買い物をしたいという思いから「エシカル消費」が生まれたのです。私たちは豊かな消費生活を送っていますが、人や社会、環境に配慮した「物」や「サービス」を選んで消費することが大切なのです。福島の風評をなくすことにも繋がっています。

また、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs：エスディーゼーズ）」、つまり「世界を変えるための17の目標」の12番目、「つくる責任・つかう責任」に「エシカル消費」を求めています。普段の買い物で「似合うかな？」「おいしいかな？」「値段は？」などと考えるのと同じように、「どこで誰が作ったのかな？」「環境にやさしいかな？」といった目線で「エシカル消費」を意識し、毎日の生活の中で少しでも実践しましょう！

令和 2 年度 福島県消費者団体連絡協議会の主な活動

	内 容	備 考
4 月 23 日 (木)	総会 (書面議決)	コロナ禍で活動自粛
6 月 30 日 (火)	第 1 回理事会	アンケートとエコチャレンジ 団体へ配布
7 月～8 月	アンケート 1,300 枚配布	有効回答数 1,229 枚
8 月	エコチャレンジに挑戦 54 世帯、123 人参加	令和元年 32,324kwh 令和 2 年 28,613kwh 3,711kwh 減。前年より減っ た世帯は 36 世帯 (68%)
9 月 16 日 (水)	東北電力(株)第二沼沢発電所及び 奥会津水力館を見学	金山町
9 月 24 日 (木)	JA 福島女性部協議会との交流会 講話:「SDGs と食品ロス」	桑折町 地産地消レストラン 「レガーレこおり」
11 月 18 日 (水) 19 日 (木)	第 1 回研修会・交流会 研修会:「DMAT ドクターのお話」 DMAT 小早川義貴 氏 見学:放射性物質減容化施設 :山津見神社	飯舘村「きこり」宿泊
10 月・11 月	文化祭に出展 飯舘くらしの会 伊達市保原町消費生活研究会	10 月 20 日～29 日 11 月 1 日～3 日
6 月 9 日 (火) 6 月 15 日 (月) 8 月 6 日 (木) 10 月 15 日 (木) 11 月 16 日 (月) 11 月 16 日 (月)	出前講座 ①「暮らしの見直し・食品ロス」 ②「ライフプラン」 ③「福島第一原発の現状」 ④「コロナ禍における新しい生活 様式と現状について」 ⑤「SDGs と私たち消費者」 ⑥「福島第一原発の現状」	福島消費生活研究グループ 川俣町消費生活研究会 県北 4 団体 川俣町消費生活研究会 会津若松消費生活研究会 白河くらしの会
12 月 2 日 (水)	第 2 回理事会	
3 月 5 日 (金)	第 3 回理事会 (予定)	

